

第 11 回

ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会 プログラム

司会・進行：三木 晶子（東京大学・院薬） [前半]
堀 里子（東京大学・院薬） [後半]

午前の部（7 月 3 日（日）10:00 ～ 12:10）

10:00-10:05 開会の言葉 海老塚 豊（DLM センター 理事長）

10:05-10:10 はじまりの挨拶 瀬尾 隆（福岡市薬剤師会 会長）

10:10-10:40

特別講演

「“薬局プレアボイド” - あなたを変える、なかまを変える -」

澤田 康文（NPO 法人 DLM センター センター長、
東京大学・院薬 教授）

発表時間 1 題 5 分（全 26 演題）

<セッション 1>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-1

10:50-11:20

座長：佐藤 宏樹（東京大学・院薬）

【A01】 薬情の写真がきっかけでワルファリンの剤形違いが発覚

【A02】 セレニカ R は顆粒でも経鼻管からの懸濁投与は不適

【A03】 徐放性製剤のペンタサ錠の一部粉碎指示は問題ないか？

【A04】 頻尿で泌尿器科を受診している患者は口渇を起こす精神科の薬を多数服用中
だった

<セッション 2>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-2

11:20-11:45

座長：小島 孝一（株式会社ファーマみらい）

- 【A05】 皮膚からの出血を気にしてバイアスピリン錠が突然削除
- 【A06】 実は整形外科外来を定期受診していた施設入居患者、訪問診療と整形外科の処方薬が重複してしまっていた
- 【A07】 在宅患者のノンコンプライアンスを予測した処方提案と吸入後の副作用発現予防のための服薬指導方法について

<セッション 3>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-3

11:45-12:10

座長：堀 里子（東京大学・院薬）

- 【A08】 低体重の高齢患者、プラザキサカプセルの色への嫌悪感と眼周囲の皮下出血によりエリキューズに切り替えになっていたが通常量であった
- 【A09】 腎障害患者では朝食後服用のアジルバ錠との相互作用回避のためにクレメジン服用時期は食後 2 時間ではなく 3 時間が最適
- 【A10】 透析患者へのリリカカプセルの処方量と服用タイミングは適切か？

(12:10-13:00 昼休み)

午後の部（7月3日（日）13:00～15:35）

<セッション 4>

テーマ B：薬剤の調製・調合のリスクマネジメント

テーマ C：服薬指導・薬歴管理のリスクマネジメント-1

13:00-13:25

座長：松原 博之（福岡市薬剤師会）

【B01】 粉碎後の異物は錠剤の印刷されている識別コードだった！

【B02】 アクテムラの外箱を開封して患者に交付しクレーム

【C01】 フリスクがデパス錠の代わりになった患者

<セッション 5>

テーマ C：服薬指導・薬歴管理のリスクマネジメント-2

13:25-13:50

座長：四百刈 敦子（アイン薬局 鹿浜店）

【C02】 食後にコーヒーを飲むときにはテオフィリンを服用していなかった患者

【C03】 友人からもらったリンデロン-VG 軟膏を顔全体に使って、皮膚が腫れ上がった患者

【C04】 ノルディトロピンを 11 日間冷蔵庫にしまい忘れた！ 使用しても大丈夫！？

＜セッション 6＞

テーマ C：服薬指導・薬歴管理のリスクマネジメント-3

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-4

13:50-14:20

座長：玉木 啓文（東京大学・院薬）

- 【C05】 一包化調剤を知らない患者が未だにいることが震災で発覚
- 【C06】 マドパーとマグミットの併用、口の中を確認したら、黒くなっていた
- 【A11】 エナラプリル錠による咳の副作用に数年間苦しんでいた患者
- 【A12】 手と足が小刻みに震えていた。Wearing-off 症状を在宅訪問中に発見し、医師に処方提案！

(14:20-14:35 休憩)

<セッション 7>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-5

14:35-15:00

座長：木下 大輔（福岡市薬剤師会）

- 【A13】 悪性症候群の初期症状と思われる血圧上昇、発熱・発汗症状のあった介護施設入所中の患者、薬剤師からのグラマリール錠中止提案で改善した
- 【A14】 ノルスパンテープ増量でボーッとする症状を発見し中止により改善
- 【A15】 FOLFOX 療法の皮膚科系副作用が外用薬の処方変更提案により改善

<セッション 8>

テーマ A：処方箋チェックのリスクマネジメント-6

15:00-15:25

座長：三木 晶子（東京大学・院薬）

- 【A16】 リカルボン錠 50 mgの副作用発見、医師は否定したがその後処方変更
- 【A17】 タムスロシンで頻脈となり、驚いて電話してきた患者
- 【A18】 患者の付き添いから聴取した食欲不振、吐き気の訴えから、コリン作動性クレーゼを疑い、ジスチグミンの中止を提案

15:25-15:30 おわりの挨拶 岩楯 新司（文京区薬剤師会・会長）

15:30-15:40 課題レポート